



加藤 元の



と暮らして  
みませんか

41

前回、犬や猫の歯周病の予防につながる歯磨きに慣れさせる方法について述べましたが、人間の場合と同様に、それだけで完璧に歯石を予防することができないわけはありません。

犬や猫には「ヒルズ」(サイエンスダイエツト)を代表とする歯石防止用の特別食があり、大いに役立ちます。しかし、歯石のたまりやすさは、歯並びや口の形、犬の大きさ、さらに、「体質」も関係します。歯石防止食を与え、歯磨きをしても、必ず定期的に病院で歯の検査をしてもらうことが大切です。

## 歯周病予防2

# 病院で定期的に歯の検査を

皆さんのできる最も簡単な方法は、歯と歯肉の分かれ目をよく観察することです。もしも、その部分が真っ白ではなく、黄色や褐色の部分が見えれば、すでに歯と歯肉のすき間に歯石がたまり、それが歯の表面に見えるほどたまっていく証拠なのです。つまり、歯周病がそれだけ進んでいるということになります。

しかし、犬や猫は、それを飼い主に知らすことはできません。また歯石を取り除く場合、人間の場合同様異なっており、口を開けて長い時間我慢はできませんから、犬や猫を怖がらせない、痛い目にあわせない、病院嫌いにさせないためにも、全身麻酔が絶対に必要になってくるわけです。

全身麻酔と聞くと、皆さんは大変恐れますが、現在では、良い麻酔装置と、それをしっかりと使いこなすスタッフさえいれば、極めて安全で、何回繰り返しても何の心配もありません。

歯周病を悪化させないための正しい治療法はただ一つ、見つけ次第、病院で歯石を完全に除去し、歯の表面をツルツルに磨いてもらうことなのです。そうしておかないとまた歯周病の原因、歯石がすぐにたまることになってしまうのです。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長)